

匠を感じる住まい



平成28年3月吉日
一般社団法人
三重県古民家再生協会発行

「古民家再生K様邸の^{さらさらしたみ}筋子下見板張り」

草木や虫たちが、目を覚まし始める季節となり、あと十日もすれば春分ですね。こんには、堤です。四日市市K様邸では、古民家リノベーションが最盛期。小屋裏には断熱材を敷き込み、梁のあらわしにしながら、杉の板張りにしました。屋根(天井)は、



下地を組んで、断熱材を敷いています



下地の室内側に、杉板張りをしました。

外部から長い時間太陽にあたり、内部からは暖房の空気が上がっていく場所なので、囲炉裏など室内で火をおこすことのない住まい方の場合は、断熱を考える上で、しっかりとやっておきたいポイントです。また、外壁では、^{さらさらしたみいたば}筋子下見板張りを大工が気合いを入れて仕作。最近この手仕事に

触れる機会がめっきり少なく、わくわくドキドキしていたのですが、この仕上がりを目にすると、つい、ほろろ笑ってしまう堤でした。



長方形の材を棧の形に加工



棧を組んでいきます



筋子下見板張り部分の完成!

「古民家の魅力発信の第一人者。 アレックス・カー氏はどんな人?!」

古民家再生協会全国大会
の東京でアレックス氏の講演
を聞いてきました!アレックス氏
の活躍をも2回にわけて
ご紹介します!

アレックス・カー氏は、アメリカ出身の東洋文化研究者、今年で64歳。



アレックス・カー氏。
(写真はHPより)

アレックス氏は、父の仕事で来日し、古き良き風景を求めて日本中を旅した。徳島県三好市の祖谷^{いや}の地に出会い、かやぶき屋根の築300年、捨てられたも同然の小屋を購入したのが、若干20歳の時。

「本気でここで仙人にでもなろうと思った」とアレックス氏が当時の想^{いや}を語る、祖谷は、日本一急な斜面を持つ山の中腹に位置し、毎日、霧が谷から沸き上がってくる景色が望める。地元の人とかやぶきを葺き替え、古民家を再生するが、アレックス氏の再生は、いわゆる“資料館的修復”ではなく、古民家の良い部分は残しながら、断熱材・床暖房を施工して、電気や水回りは大胆にやり替える。

今では、祖谷の山里で9棟を再生し、古民家を宿泊施設として棟貸ししており、来客の絶えない

場所となっている。「祖谷に行くのと同じ時間をかければ、下手したら、ホノルルやバンコクに行けてしまいます。つまり競争相手は、世界なんです。自然にも地元にもやさしく、経済が回り、文化が引き立つような未来型観光を目指したい。それが私の考える地域活性化ですわ。」とアレックス氏は語るのだ。



祖谷の古民家から望む風景。
(写真はHP"桃源郷 祖谷の山里"より)

… 続きは次号で「アレックス氏のニッポン景観見論」をお届けします!

一般社団法人
三重県古民家再生協会

〒510-8016
三重県四日市市

HP:
www.kominka-mie

富州原町10-6

TEL: 059-366-3833
FAX: 059-361-1616
✉ info@tap-s.com



「次回の古民家鑑定士情報」

3/16(水) 13:00~ アスト津 会議室4

4/27(水) 13:00~ 四日市市文化会館
第3会議室